

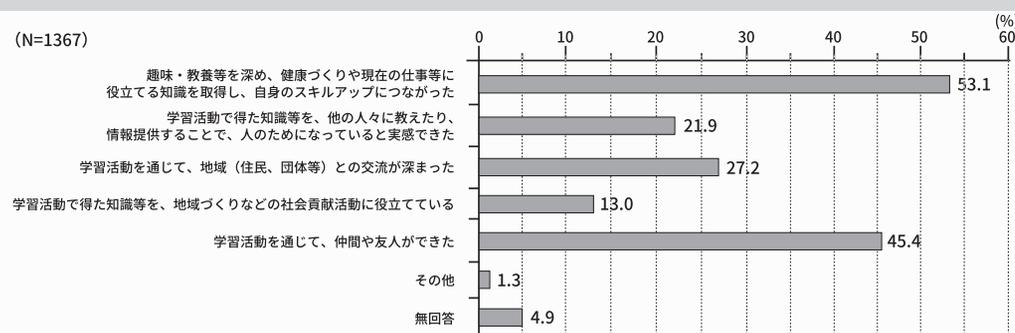
【図表 4-1 学習活動の内容（一般市民、センター利用者）】

	全体	趣味的なもの (音楽、手芸、 園芸、民謡、囲碁など)	(文学・歴史など) 教養的なもの	社会問題(時事、政治、 教育、環境、福祉など)	健康・スポーツ・レクリエー ション(体操、球技、水泳、 ハイキングなど)	工 消費生活など (料理、編み物、園芸、日曜大 工)	家庭教育 乳幼児のしつけ(育児)や家 庭教育	職業上必要な知識・技能 (仕事に関係のある知識の習 得、機械、IT関連など)	外国語の習得	ボランティア活動のために必 要な知識・技術	地域社会の理解や振興のために必要 な知識・技術(まちづくり、地域の 伝統文化、地域の防災など)	その他	無回答 (%)
全体	1,367人	46.2	19.7	13.3	49.6	17.4	11.5	8.3	5.4	23.8	22.2	2.5	1.8
内訳	一般市民	293人	37.2	23.5	11.6	50.5	13.7	4.8	19.1	9.9	15.0	3.4	1.0
	センター利用者	1,074人	48.7	18.6	13.8	49.3	18.4	13.3	5.3	4.2	27.1	24.1	2.2

資料：北九州市

また、学習活動を通じて良かったこととして、「趣味・教養等を深め、健康づくりや現在の仕事等に役立てる知識を取得し、自身のスキルアップにつながった」が53.1%と最も多く、次いで「学習活動を通じて、仲間や友人ができた」が45.4%となっています。(図表5)

【図表 5 学習活動をして良かったこと】

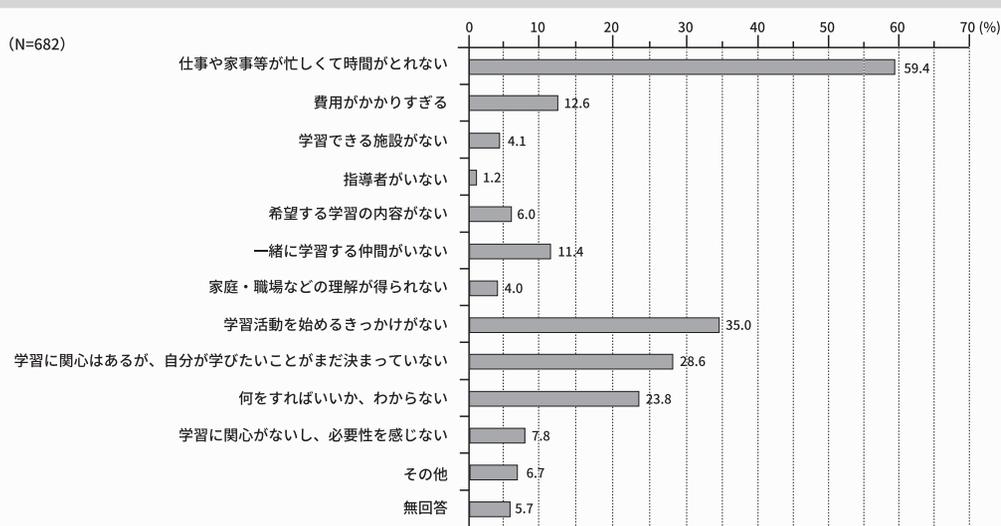


資料：北九州市

○学習活動を行っていない最も多い理由は「時間がとれない」

学習活動を行っていない理由は、「仕事や家事等が忙しくて時間がとれない」が59.4%と最も多く、次いで「学習活動を始めきっかけがない」が35.0%、「学習に関心はあるが、自分が学びたいことがまだ決まっていない」が28.6%となっています。(図表6)

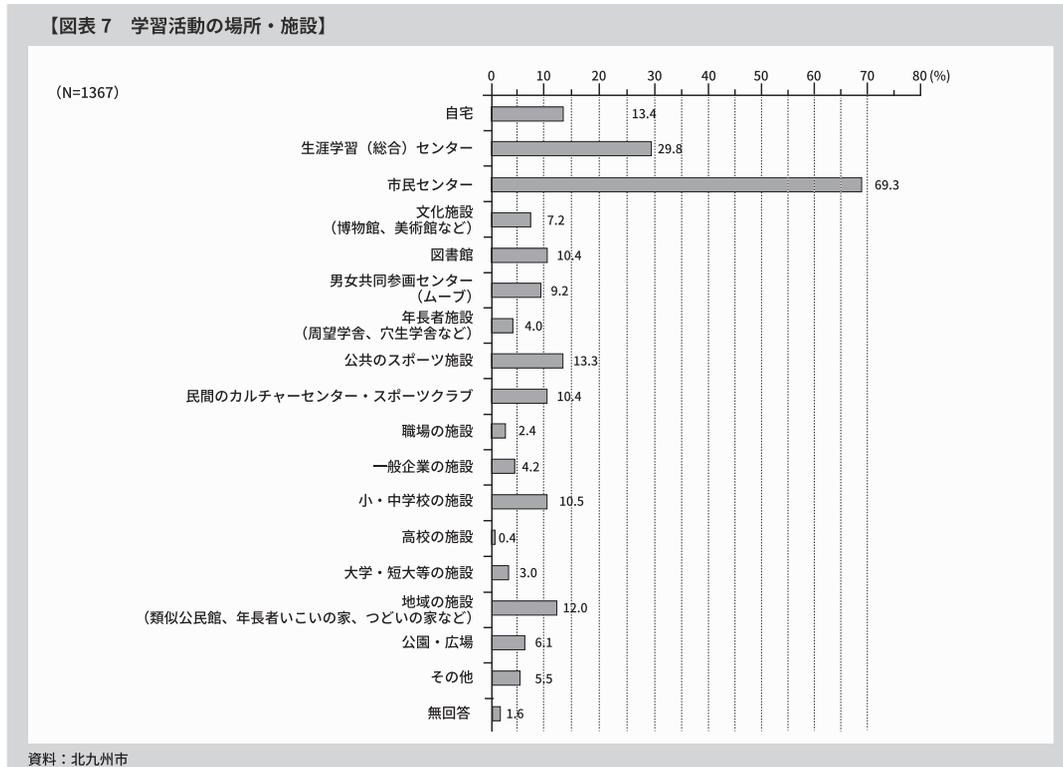
【図表 6 学習活動をしていない理由】



資料：北九州市

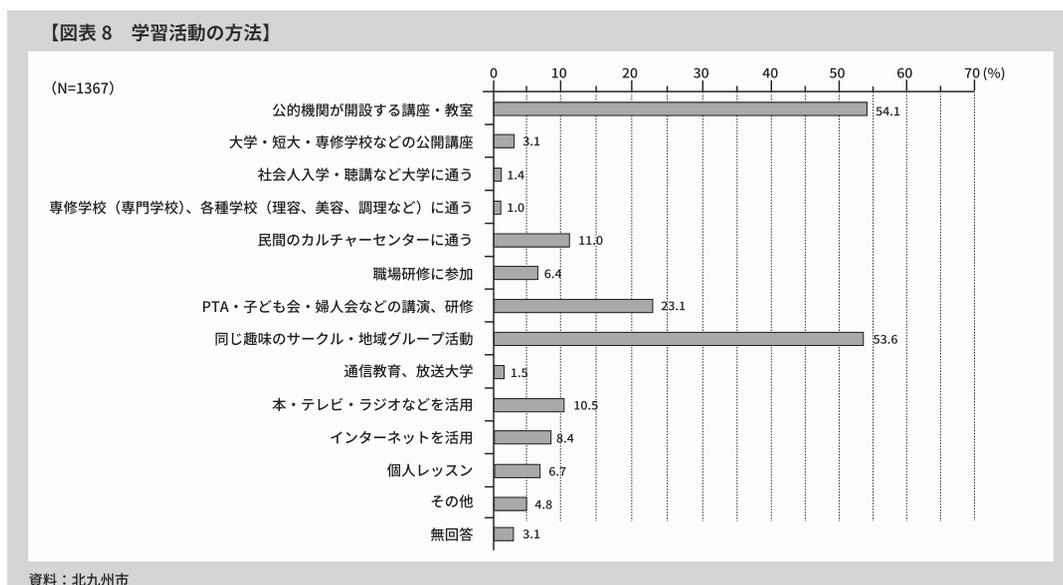
#### (4) 学習活動の場所と方法

○学習活動を行う場所・施設は「市民センター」「生涯学習(総合)センター」「自宅」など学習活動を行う場所は、「市民センター」が69.3%と多く、次いで「生涯学習(総合)センター」が29.8%、「自宅」が13.4%となっています。(図表7)



○学習活動の方法は「公的機関が開設する講座・教室」「同じ趣味のサークル・地域グループ活動」の割合が多い

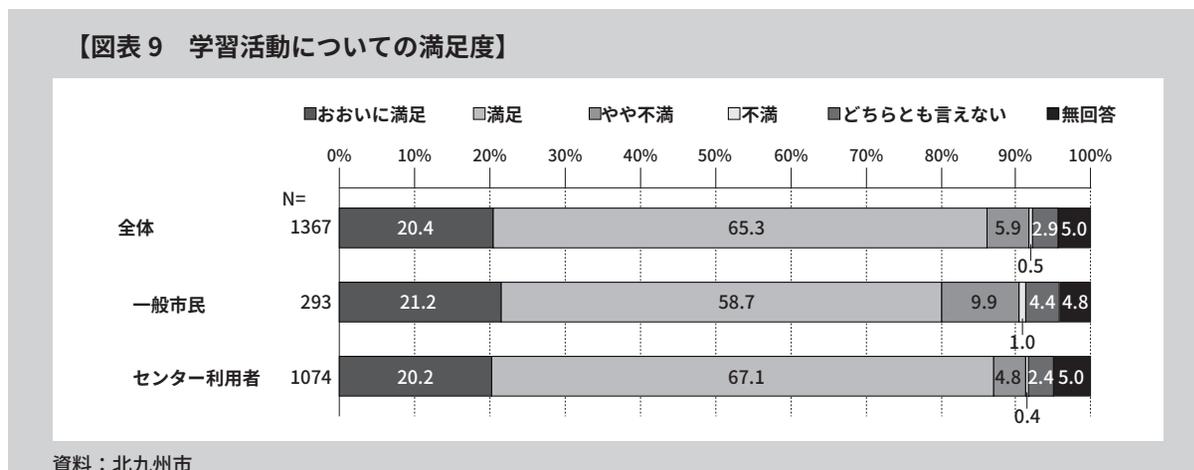
学習活動の方法は、「公的機関が開設する講座・教室」が54.1%と最も多く、次いで「同じ趣味のサークル・地域グループ活動」が53.6%、「PTA・子ども会・婦人会などの講演、研修」が23.1%となっています。(図表8)



### (5) 学習活動に対する満足度

○学習活動に「満足している」割合は約9割

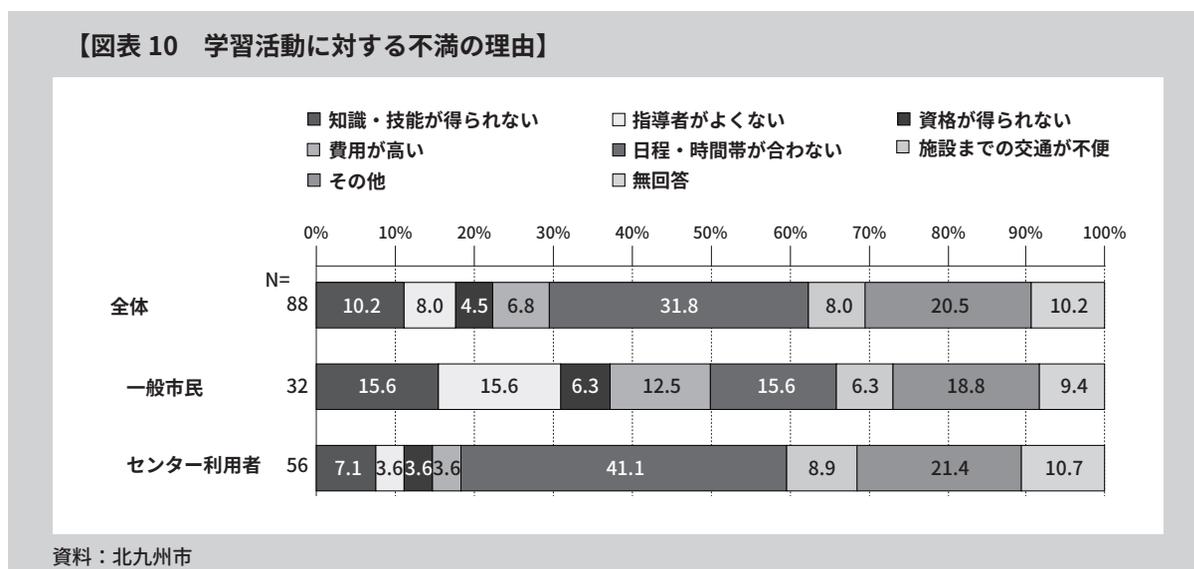
学習活動に対する満足度は、全体では「満足」が65.3%と最も多く、次いで「おおいに満足」が20.4%、「やや不満」が5.9%となっています。「おおいに満足」と「満足」を合わせた『満足』は、85.7%となっています。(図表9)



○満足していない理由は「日程・時間帯が合わない」「施設までの交通が不便」など

学習活動に満足していない理由は、全体では「日程・時間帯が合わない」が31.8%と最も多く、次いで「知識・技能が得られない」が10.2%、「指導者がよくない」「施設までの交通が不便」がともに8.0%となっています。

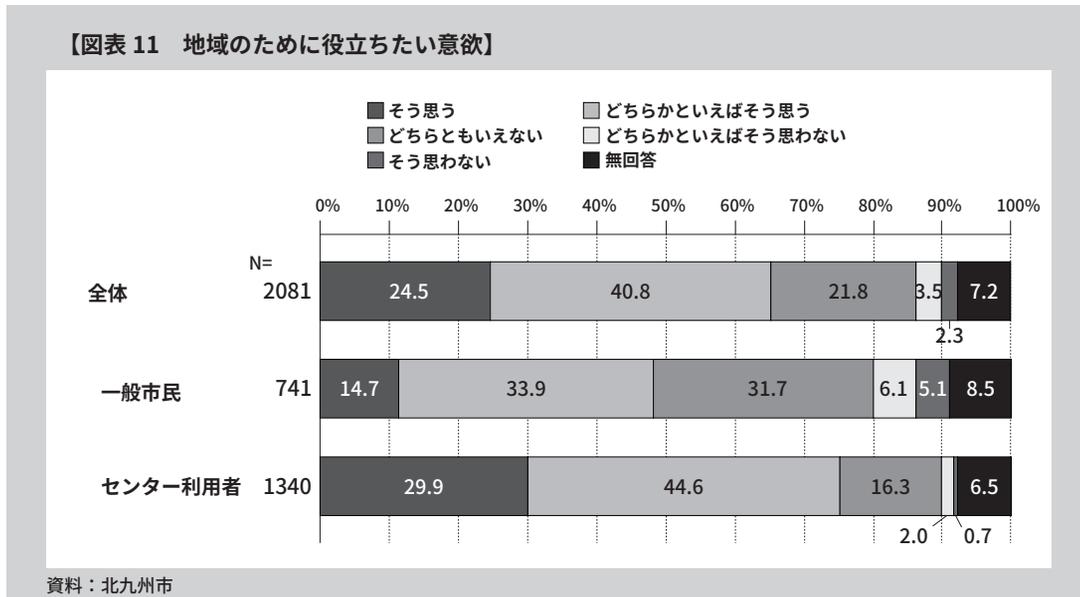
一般市民は「知識・技能が得られない」「指導者がよくない」「日程・時間帯が合わない」(同率15.6%)が最も多くなっています。一方、センター利用者は「日程・時間帯が合わない」(41.1%)が最も多くなっています。(図表10)



## (6) 学習成果の活用

### ○「地域のために役立ちたい」に肯定的な意見の割合が約7割

「どちらかといえばそう思う」が40.8%と最も多く、次いで「そう思う」が24.5%、「どちらともいえない」が21.8%となっています。一般市民、センター利用者ともに「どちらかといえばそう思う」が最も多くなっています。(図表 11)



### ○学習成果を社会貢献に活かすことに肯定的な意見の割合が約8割、「すでに活かしている」の割合が約4割

学習成果を活かした地域活動や社会貢献への意欲は、全体では「すでに活かしている」が38.1%と最も多く、次いで「機会があれば活かしたい」が34.4%、「そのつもりはない、その必要はない」が11.3%となっています。

一般市民は「機会があれば活かしたい」(39.2%)が最も多くなっています。一方、センター利用者は「すでに活かしている」(42.6%)が最も多くなっています。(図表 12)

